

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 10月6 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070100902
法人名	医療法人 社団 生方会
事業所名	グループホーム「陽だまり」
所在地	群馬県前橋市表町2-27-20 (電 話) 027-225-1165
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年 9月26日

【情報提供票より】(平成19 年9 月12 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 10 年 11 月 1 日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	7 人	常勤	7 人,	非常勤	0 人, 常勤換算 7.0

(2)建物概要

建物構造	(鉄骨) 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,300～126,000 円		その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円	
	夕食	550 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり 円				

(4)利用者の概要 (9 月12 日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 92.3 歳	最低 84 歳	最高 102 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	生方医院 布川歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存の建物を改修し設置された事業所である。構造や居室の広さや形は様々であるが、利用者の馴染みの品が多く持ち込まれており、一人ひとりが落ち着いて過ごせる家庭的な環境になっている。
管理者と職員は運営理念を常に意識し、共同しながら利用者の暮らしを支援し、共に家族と一緒に過ごすように接している。利用者は、ゆるやかな時間の流れの中でゆったり・のんびりと思い思いに、その人らしい毎日を送られている様子が見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 手すりの設置が不十分については、利用者の一人ひとりの身体機能を把握し、一人ひとりに安全面の配慮をし介助方法を取り入れ設置はしていない。介護計画の見直しは、家族の要望や職員の気づき、情報をケア会議で話し合い見直しがなされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 日常のケアの見直しの機会と捉え、自己評価の意義や目的を伝え、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に開催し事業所から報告を行い、質問や意見・要望を受けている。また利用するレストランの出入り口の段差の問題について、参加者が先方にスロープ設置等について話をしてくれる等協力的な意見が出されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に家族代表者に参加をしてもらい意見や要望を聞くようにしており、また議事録を家族に送付している。家族から意見や要望が言い難いことが多いと考え、職員自身が家族の立場となり、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりや接し方に配慮するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会の活動を(廃品回収、お祭り、町内虫の駆除等)通じ地域との交流がある。法人の納涼祭、事業所のバーベキュー大会に気軽に地域の方が参加してくれる。シニア傾聴ボランティア、小、中、高の職場体験や医学生の実習、職員の子供ボランティア等を受け入れ、地域との連携を深めている。近隣者が花植えに来てくれる等の交流もある。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営理念「ゆずり合い、信じ合い、助け合い」を掲げて、地域のニーズに応えるために開設された事業所であり、地域との関係性を意識して運営されてきている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、ミーティングやカンファレンスの時に理念を折に触れ話し合い、利用者と共に職員も暮らしていることを意識しながら、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の活動を(廃品回収、お祭り、町内虫の駆除等)通じ、地域との交流がある。同法人の納涼祭や事業所のバーベキュー大会に気軽に地域の方が参加してくれる。シニア傾聴ボランティア、小、中、高の職場体験や医学生の実習、職員の子供ボランティア等を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。日常のケアの見直しの機会にもなっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所から報告を行い、質問や意見・要望を受けるようにし、地域の理解と支援を得られている。外食時のレストランの出入り口の段差の問題について、参加者から先方にスロープについて話を下さる等の協力的な意見が出されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは気軽に相談したり・受けたりの連携を持ち、ケアサービスの質の向上に繋げている。市主催の情報交換会に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議の議事録を家族に送っている。日々の暮らしぶりや健康状態を来訪時やメール、電話等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情は言い難いことが多いと考え、職員自身が家族の立場となり、何でも言ってもらえる雰囲気づくりや接しかたに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所開設以来、職員の異動は、利用者への影響を考え最小にするようにしており、馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修には積極的に参加をするようにしている。研修内容は会議で報告をし職員間で共有を図っている。資格取得に関しては事業所としてサービスの質の向上のため応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、他の事業所との連携を深めて、ホームを職員交流や研修の場として提供し、ケアサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族で見学をしてもらい、利用者と共にお茶を飲みながら雰囲気に馴染んでもらうようにしている。入居後は状況により家族の宿泊が可能で、安心して利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや意向と一緒に過ごしながらか理解するように努め、支援する側・支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかに生活ができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係りの中で言葉かけを行い、表情や言葉・行動から真意を推し測ったり、それとなく確認をするようにしている。また、家族からの情報も合わせ、カンファレンスを行い希望や意向を導きだし(買い物、墓参り、食べたい物等)支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聴き、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の会議は本人、家族を含めて行い、職員が情報を確認し、本人や家族の要望を取り入れつつ、臨機応変に見直しをしている。状態の変化に応じ、現状に即した随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の同法人の病院や福祉施設の職員の協力を得ながら柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、ホームに往診をしてもらっている。専門医の受診も受けられるようになっている。家族と相談を行いながら適切に医療が受けられるよう支援をしている。協力医療機関との連携は密に行い、気軽に相談や助言が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化対応指針について説明を行っており、状態の変化に応じて、カンファレンスを行っている。家族に現状を話し今後の方針について話し合い、その都度意志確認を行い希望に添って支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側で決められているのは食事時間だけである。時間を区切った過ごし方ではなく、利用者一人ひとりの、その日・その時の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接病院から食事が提供されており、栄養管理がされている。利用者と職員は、同じテーブルを囲みさり気なく支援を行いながら食べている。楽しみの観点から時には外食や出前も取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望に添って、タイミングや気持ちを大切に支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の情報を元に利用者の出来そうなことを把握し、力を発揮してもらうような(洗濯物をたたむ、買い物、花に水をやる等)場面づくりをしている。手紙や電話をする手伝いをするようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、庭の花の水やり等で戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面に配慮して、日中は玄関の鍵をかけずに利用者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、ホーム内の清掃の機会に避難場所の確認や誘導訓練を行っている。地域の商店や近隣者・同法人の病院・福祉施設の協力体制を呼びかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの随所にソファや椅子を置き、観葉植物・季節の花・テーブルと椅子の配置の工夫がされ、居心地のよい環境づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類や家族写真・掛け軸・テレビ・人形・位牌・茶道具等の馴染みの物が多く持ち込まれて、その人らしい居室になっている。		